



校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り8月1号

令和8年8月3日発行

戦後 81 年。安寧な世をつくるために

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

戦後81年を迎える。戦死者230万人、市民死者80万人、計310万人もの人々がなくなったとされる先の戦争終結から81年経った。8月15日は「終戦記念日」。「戦没者を追悼し平和を祈念する日」され、日本武道館での「全国戦没者追悼式」をはじめ、戦没者を慰霊する式典が全国各地で行われる。昭和20年8月15日正午に昭和(裕仁)天皇の「終戦の詔書」が放送(玉音放送)されたことから、日本ではこの日を終戦の日としている。ちなみに、海外では一般的に、第二次世界大戦の終結は、9月2日と認識されている。なぜならば、当時の日本の外務大臣であった重光葵(しげみつまもる)氏が、米国の戦艦ミズーリ号で降伏文書に調印した日が9月2日だからである。

改めて、この戦争の呼称、戦争に至った理由、どういう戦いがあり、日本はどのように戦い、国民の暮らしはどうだったのか、それぞれの国々の人々はどんな思いをこの戦争や相手国に持っていたのか。今とはだいぶ異なる世界情勢なので、理解しがたい部分もあるかもしれないが、この戦いに至るまでの流れ、経過、意義、歴史を振り返ることは大切なことであり、現代社会にどのような影響を与えているのかを知ることは日本人として理解しておくべきことと考える。様々なメディアから情報を得、戦争の理解を深め、それらを通して、安定した世の中を作り上げていくために、自分には何ができ、どんな役割を果たしていくのか、考えて欲しい。また、霧島市内を含め、県内には、戦死者を祭った場所や平和祈念館、戦跡等がいくつもある。そこを訪れることもこれらのことを考えるきっかけになる。さらには、この時期、戦争を題材にした映画の公開、テレビ番組の特集などもある。是非、観て、そこに込められたメッセージを感じ取ってほしい。



国分南中校区内にある特攻隊員慰霊碑(国分自衛隊駐屯地正門前)。ここにあった海軍航空隊国分第一基地と第二基地(溝辺)から427名の隊員が沖縄海上に向け出撃、散華されています。

8月是人権月間

毎年、8月は鹿児島県では人権月間となっている。これは、昭和40年8月に国の同和対策審議会から「同和地区に関する社会的及び経済的諸問題を解決するための基本的方策」について答申が出されたことにちなみ、8月を「人権同和問題啓発強調月間」と定め、この期間中に各種の啓発活動が集中的に実施される。県では、「全ての人の人権が尊重される社会づくりのためには、私たち一人ひとりが、自分の人権だけではなく、他人の人権についても正しく理解し、一人ひとりの多様性を認め合うことが大切です。この機会に、あなたの身近なことから人権について考え、そして行動しましょう。」と呼び掛けている。私たちの身近なところにも、人権問題や差別が起こっている。まずは、そのことを認識することが重要である。いじめ問題も同様であるが、いじめの加被害当事者だけの問題ではなく、その周りの人々がどのような対応をするかが、問題解決の大きなカギとなる。私たちは、様々な学びを通して、人権感覚を高めていかなければならない。



R7年度県人権に関するポスターコンクール最優秀賞受賞作品

県総体を振り返って

県総体が終わりと、10日余りが過ぎた。上位大会への出場が叶わなかったチーム、選手は、部活動からの引退、或いは新チームづくり、次の大会に向けた練習を既にスタートさせている。今年度は、激励のため、陸上、ソフトテニス、水泳、卓球、バレーボールの5競技、6会場を訪れた。どの会場も熱気にあふれていた。国分南中学校の名前を背負い戦う姿を誇らしく思う。それぞれの地区大会等を勝ち上がった選手、チームであるため、やはり競技力の高い選手が多く、1つ勝つということも至難の業であると感じた。力の拮抗した試合、レースもある。どんなに競っていても、最後には、決着のときが訪れる。勝利の一方で、悔し涙に崩れる光景。応援席も涙に包まれる。残念さをにじませながらも、「楽しかった」と思いを吐露する保護者もいっしょだった。子どもたちへの感謝の思いであろう。涙いっぱい目は、微笑んでいた。部活動等とともに成長してきた子、それを支えた家族。互いの関係や絆の深まりも伝わってきた。やはり、「じんと」来るものがあつた。

真剣に向き合い、激闘する姿には、たとえ、見知らぬ子たちであっても感動を覚える場面が多々あつた。

また、勝ち上がる、勝ち切るチーム、選手がある。一方的な試合や独走するレースが一部には見られたが、多くはそうではない。大概が競り合う場面ばかりである。その中に合って、シードされたチーム、選手が着実に勝ち上がっていく。これまでの大会での経験や自信は大きいと思うが、それがすべてではなからう。「ここにかける」「絶対勝つ」という揺るがない強い気持ちを感じた。さらには、強い選手は、熱く戦いをしているものの、冷静に状況を分析し、的確に判断し、試合に臨んでいると感じた。試合は、一瞬一瞬、一步一步の積み重ねである。「観(かん)・考(こう)・推(すい)・洞(どう)」という言葉がある。観察し、考察を重ね、推察し、そして最後には洞察。こうあれば、相手の動きや次のプレー・状況を「よむ」(見通す・見抜く)ことができるので、迷いがなく、もっとも的確なプレーを選択できる。そういうことができずチーム・選手が勝ち上がっていった。迷いや戸惑いは、消極的なプレーや冷静さを欠いたプレーとなり、自滅を招く。

さらには、技術、体力は勝ち上がるための重要な要素である。加えて、心の安定、心をチームで揃えることがさらに重要であり、そのために戦略、戦術をしっかりと立て、加えて日頃より、ゲーム観を養うことが必要なのである。これらは、本校の課題であるとも感じた。

最後に、未熟だった子どもたちを指導し、チーム、選手を育ててくださった顧問、指導者の方々に敬意を表します。また、活動を支えてくださった保護者、地域の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。大会運営に取り組まれた方々もお疲れさまでした。



〔令和8年8月後半、9月前半の主な行事予定〕

8月11日(火) 山の日 12日(水)学校閉庁日(～14) ※学校のすべての業務が停止となります。

21日(金)出校日 命の教育の日 全校集会

22日(土)PTA親子奉仕作業(PTA環境保体部、1年生保護者・生徒 7:00～9:00) ※荒天順延

9月1日(火)始業式 2日(水)3年実力テスト(～3) 7日(月)いじめ問題を考える週間(～11)

16日(水)体育大会予行 **19日(土)第59回体育大会**

※ あくまでも予定ですので、変更等が生じる可能性があることを予め、了解ください。